

## 主専攻開講授業科目及び授業担当教員

区分	授業科目	年次	単位数		担当教員名
			講義	演習	
共通科目	特別研究（研究計画立案）	1・2		2	高橋永子、坂本雅代、栗原幸男、片岡万里、溝淵俊二、森木妙子、池内和代、石上悦子、山脇京子、大井美紀、齋藤美和、濱田佳代子、藤田晶子、青木早苗、小松輝子、野村晴香、高橋美美、杉本加代、吉村澄佳
	特別研究（実験・調査）	1・2		2	〃
	特別研究（ゼミナール）	1・2		2	〃
	特別研究（論文作成）	1・2		2	〃
	特別研究（研究発表）	1・2		2	〃
	課題研究	1・2		6	〃
	健康情報論 ※1	1・2	2		栗原幸男
	保健統計論 ※1	1・2	2		新任の教授
	健康環境論 ※1	1・2	2		新任の教授
	看護研究論 ※1	1	2		坂本雅代、大井美紀、濱田佳代子、野村晴香
	看護理論 ※1	1	2		高橋永子、山脇京子、寺下憲一郎
	看護倫理 ※1	1	2		片岡万里、森木妙子
	ペアレンティング学 ※1	1・2	2		池内和代、石上悦子、濱田佳代子、吉村澄佳、植田啄佐(非)、新任教員
	看護英語 ※1	1・2	2		植田啄佐(非)
	看護政策論	1・2	2		高橋永子、池内和代
病態生理学	1・2	2		溝淵俊二、青木早苗	
看護教育・看護管理学分野科目	看護教育・管理学特論Ⅰ	1・2	2		坂本雅代、野村晴香、岡田久子
	看護教育・管理学特論Ⅱ	1・2	2		池内和代、森木妙子
	看護教育・管理学演習	1・2		2	坂本雅代、高橋永子、森木妙子
	保健医療情報学演習	1・2		2	栗原幸男
母子看護学分野科目	母子看護学特論Ⅰ	1・2	2		池内和代、石上悦子、濱田佳代子、小松輝子、吉村澄佳、村上歩、新任教員
	母子看護学特論Ⅱ	1・2	2		池内和代、植田啄佐(非)
	母子看護学演習	1・2		4	池内和代、石上悦子、濱田佳代子、小松輝子、吉村澄佳、植田啄佐(非)、新任教員

成人・老人看護学分野科目	成人・老人看護学特論Ⅰ	1・2	2		高橋永子、溝渕俊二、山脇京子、青木早苗、林 昌子、寺下憲一郎
	成人・老人看護学特論Ⅱ	1・2	2		片岡万里、大井美紀、藤田晶子、齋藤美和、杉本加代
	成人・老人看護学演習	1・2		4	高橋永子、片岡万里、山脇京子、大井美紀、藤田晶子、齋藤美和、青木早苗、杉本加代、高橋美美
基礎助産学 科目	ペアレンティング学 ※2	1・2	2		
	母子看護学特論Ⅰ ※2	1・2	2		
	母子看護学特論Ⅱ ※2	1・2	2		
	助産学特論	1	1		池内和代、小松輝子
	ウイメンズヘルス論	1	1		溝渕俊二、濱田佳代子
助産学実践 科目	助産診断・技術学基礎	1	1		溝渕俊二、池内和代
	助産診断・技術学特論Ⅰ	1	1		池内和代、石上悦子、杉本加代
	助産診断・技術学特論Ⅱ	1	1		石上悦子、小松輝子、吉村澄佳、新任教員
	助産診断・技術学演習	1		3	池内和代、石上悦子、小松輝子、濱田佳代子、青木早苗
	周産期ハイリスク論	1	1		池内和代、石上悦子、小松輝子
	周産期医療システム論	1	1		栗原幸男、石上悦子
	母子精神病理学	1	1		石上悦子
	コンサルテーション論	1	1		小松輝子
	助産学実習Ⅰ ※3	1		2	池内和代、石上悦子、小松輝子、濱田佳代子、村上歩
	助産学実習Ⅱ ※3	2		7	池内和代、石上悦子、小松輝子、濱田佳代子、村上歩
地域助産学実習	2		4	池内和代、石上悦子、小松輝子、濱田佳代子、村上歩	
助産学関連 科目	地域母子保健診断学	1	1		池内和代、石上悦子、新任教員
	助産管理学	1	2		高橋永子、池内和代

特別研究（計10単位）または課題研究のいずれかを選択する。

※1は、開放科目（他専攻学生の履修を認める科目）

※2は、他区分との重複科目

※3は、男子の履修不可

二重線：当該授業の担当主任教員

※ 時限について

1時限	8：50～10：20
2時限	10：30～12：00
3時限	13：10～14：40
4時限	14：50～16：20
5時限	16：30～18：00
6時限	18：10～19：40
7時限	19：50～21：20

# 1 共 通 科 目

## 特 別 研 究

### 到達目標

大学院で学んだ科目の成果をふまえ、自己の研究テーマについて教員と論議を行い、研究計画書を作成する。そして、倫理的な配慮のもと根拠に基づいた研究方法・成果をふまえて論文を完成し発表する一連の研究プロセスを修得する。

### 特別研究（研究計画立案）

- ・課題意識を明確にし、研究テーマを設定できる。
- ・研究テーマに関する文献レビューし、研究課題を位置づけられる。
- ・研究枠組みおよび概念枠組みを明確にできる。
- ・研究テーマに適した研究方法を選択できる。
- ・配慮すべき倫理的な事項を列挙できる。
- ・研究計画書を決められた形式で作成できる。

### 特別研究（実験・調査）

- ・研究計画書にそって、具体的に実験・調査を設定できる。
- ・実験・調査を実際に実施する中で、必要な技術を修得する。
- ・研究の信頼性、妥当性を確保するための事項を理解している。
- ・当該実験・調査の限界と課題を理解している。
- ・実験・調査のデータ分析が適切に行える。
- ・実験・調査から得られた結果を検討し、新しい知見を抽出できる。

### 特別研究（ゼミナール）

- ・研究課題を分かり易く説明できる。
- ・研究の問題点を他者と議論し、深められる。
- ・ゼミでの他者の意見を参考に、研究方法等の改善ができる。

### 特別研究（論文作成）

- ・基本的な論文構成（緒言・研究方法・結果・考察・結語・引用文献）に従って、論文を作成できる。
- ・研究内容を分かり易く、正確に記述できる。
- ・研究の論理を明確に記述できる。
- ・倫理上の配慮した記述ができる。

### 特別研究（研究発表）

- ・発表要旨・抄録を作成できる。
- ・研究内容を分かり易く表現したスライドおよび発表原稿を作成できる。
- ・発表時間内で分かり易く研究内容を説明できる。
- ・質問の意図を理解しようと努める。
- ・質問に対して、適切な回答をするように努める。

## 課 題 研 究

### 到達目標

医療の場を含む人々の健康的な生活の場で生じる諸々の現象をふまえて、主専攻と「看護学の発展」の視座から課題を探求し、教員の指導のもとに論文を作成する。

### 課題研究（研究計画立案） 2単位

- ・ 課題意識を明確にし、研究テーマを設定できる
- ・ テーマに関する文献検索し、研究課題を位置づけられる
- ・ 研究テーマに適した研究方法を選択できる
- ・ 配慮すべき倫理的な事項を列挙できる
- ・ 研究計画書を決められた形式で作成できる

### 課題研究（調査・ゼミナール） 2単位

- ・ 研究計画書にそって具体的の実験・調査を設定できる
- ・ 研究の信頼性・妥当性を確保するための事項を理解している
- ・ 実験・調査のデータ分析が適切に行える
- ・ 研究の問題・課題を他者と議論し深められる
- ・ ゼミナールで他者の意見を参考に研究方法などの改善ができる

### 課題研究（論文作成・発表） 2単位

- ・ 基本的な論文構成（緒言、研究方法、結果、考察、結語、引用文献）に従って論文を作成できる
- ・ 論理的で一貫性がある論文を作成できる
- ・ 倫理的に配慮した記述ができる
- ・ 発表要旨や抄録を作成できる
- ・ 研究内容をわかりやすく発表できる
- ・ 質問に対して適切な回答をすることができる

## 授業科目：健康情報論（2単位）

到達目標：健康に関わる情報の特性を理解する。

健康支援に必要な保健・医療の IT 化を理解する。

保健・医療における IT 化の状況を理解する。

健康支援のための保健・医療情報の活用の視点を理解する。

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	26.6.09	月	7	健康に関わる情報の特性	栗原幸男	看護学科棟保健指導室 (2階)
2・3	26.6.16	〃	6・7	健康支援に必要な保健・医療の IT 化	〃	
4・5	26.6.23	〃	〃	保健・医療における IT 化の変遷	〃	
6・7	26.6.30	〃	〃	保健・医療データの標準化	〃	
8・9	26.7.07	〃	〃	医療データ（電子カルテ）と健診データ	〃	
10・11	26.7.14	〃	〃	広域災害と保健医療情報	〃	
12・13	26.7.28	〃	〃	健康支援の情報提供のあり方	〃	
14・15	26.8.04	〃	〃	保健・医療における AI 活用の可能性と課題	〃	

参考図書：

1. Kathryn J. Hannah, Marion J. Ball and Margaret J.A. Edwards. Health Informatics: Introduction to Nursing Informatics. Springer.
2. 日本医療情報学会医療情報技師部会. 医療情報 医療情報システム編. 篠原出版新社.
3. 中野正孝ほか. 系統看護学講座 基礎8. 情報科学. 医学書院.
4. 西垣 克監訳. 看護とコンピュータ. 医歯薬出版.

## 授業科目：保健統計論（2単位）

新任教授が担当しますので、前年度と多少変更になります。詳細は新任教授就任後にご連絡します。第2学期の月曜日6，7時限に実施する予定です。

【以下、前年度のものです。】

- 学習目標：1) 看護研究を実際に行って収集されたデータの特性について学習する。
- 2) 母集団から抽出された標本データから母集団の特性を推定するために、平均値等の集団の特性値及びその検定手法、比率の検定手法を理解する。
- 3) 看護研究でしばしば用いられる調査票を用いた手法について、社会調査論の立場から実施手技について理解し、得られたデータの収集・解析・評価の実際を学習する。
- 4) 人間の健康や障害に係わる事象と影響する要因との因果関係を推定するための統計手法（二次クロス・三次クロス・多変量解析）を実際に SPSS、Excel 統計等の統計ソフトを用いて学習する。

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1・2	H25.10.7	月	6・7	SPSS の使い方	吾妻 健	地域看護学講座・地域看護学 共同研究室（4階）
3・4	10.21	〃	〃	保健統計学①データの取扱い	〃	
5・6	10.28	〃	〃	保健統計学②比率の比較検定	〃	
7・8	11.11	〃	〃	保健統計学③平均値の比較検定	〃	
9・10	11.18	〃	〃	基礎統計学，2群間の比較	高尾俊弘	
11・12	11.25	〃	〃	分散分析と多重比較	〃	
13・14	12.02	〃	〃	独立性の検定	〃	
15・16	12.09	〃	6	多変量解析	〃	

## 授業科目：健康環境論（2単位）

新任教授が担当しますので、前年度と多少変更になります。詳細は新任教授就任後にご連絡します。第2学期の月曜日6，7時限に実施する予定です。

【以下、前年度のものです。】

- 学習目標：1) 人間の健康に影響を与える要因に対する基本的視座を学び、疾病や障害の発生するメカニズムを理解する。
- 2) 健康要因の中でも特に内部環境（ホメオスターシス）の破綻が人間の健康に与える影響を学習する。
- 3) 環境ホルモンの人体への曝露に関する影響を学び、疾病や異常を引き起こす許容限界の考え方を理解する。
- 4) 人間の健康に影響を与える要因のうち、ストレスのマネジメント、リスクコミュニケーションの実際を数名のグループに分かれて検討し、各グループの考えをプレゼンテーションする。

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	H25.12.9	月	7	ホメオスターシスと健康	高尾俊弘	地域看護学講座・地域看護学 共同研究室（4階）
2	12.16	〃	6・7	グループワーク	〃	
3	H26.1.20	〃	〃	グループワークとプレゼンテーション	〃	
4	1.27	〃	〃	環境ホルモンと健康	〃	
5	2.3	〃	〃	グループワーク	〃	
6	2.10	〃	〃	グループワークとプレゼンテーション	〃	
7	2.17	〃	〃	ストレスと健康	〃	
8	2.24	〃	〃	プレゼンテーションおよびまとめ	〃	



## 授業科目：看護研究論（2単位）

学習目標：看護における研究の意義や役割を理解すると共に、研究論文などのクリティークを通して、各自の研究に必要な研究枠組みや研究方法、研究計画から論文作成までの研究概要について理解できる。

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	4月14日	月	6	看護研究の意義・役割	坂本	基礎看護学（3階）・母性看護学（5階）・精神看護学（6階） いずれかの共同研究室
2	4月14日	〃	7	看護研究の動向と倫理	坂本	
3	4月21日	〃	6	研究課題と文献検討	坂本	
4	4月21日	〃	7	研究デザイン・研究方法概要	坂本	
5	4月28日	〃	6	量的研究法(1)	野村	
6	4月28日	〃	7	量的研究法(2)	野村	
7	5月12日	〃	6	質的研究法(1)	濱田	
8	5月12日	〃	7	質的研究法(2)	濱田	
9	5月19日	〃	6	看護論文査読 (1)	大井	
10	5月19日	〃	7	看護論文査読 (2)	大井	
11	5月26日	〃	6	看護論文査読 (3)	大井	
12	5月26日	〃	7	研究計画プレゼンテーション(1)	大井・濱田 野村・坂本	
13	6月2日	〃	6	研究計画プレゼンテーション(2)	大井・濱田 野村・坂本	
14	6月2日	〃	7	研究計画プレゼンテーション(3)	大井・濱田 野村・坂本	
15	6月9日	〃	6	研究計画プレゼンテーション(4)	大井・濱田 野村・坂本	

## 授業科目：看護理論（2単位）

### 到達目標

1. 看護学における看護理論の位置づけを学び、これまでに開発された諸理論について理解する。
2. 看護実践の中で応用可能な中範囲理論と基礎となる広範囲理論の概念について理解し、活用法について説明できる。
3. 学生の看護実践の具体的現象を取り上げ、理論を用いて説明できる。

回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1・2	26.6.12	木	6・7	私と看護理論との出会い・自己紹介 看護理論の発展 ① 看護理論入門：歴史・用語・分析	高橋 永子	保健指導室
3・4	6.19	〃	6・7	② 看護における理論の重要性 ③ 理論開発の過程 看護理論 ① 看護理論の分類 ② 看護理論の種類 ③ 看護理論の実践への適応 (演習計画の説明)	高橋 永子 山脇 京子	
5・6	6.26	〃	6・7	① 看護理論の紹介（1） ② 看護理論の紹介（2） ③ 看護理論の紹介（3）	高橋 永子 山脇 京子 寺下憲一郎	
7・8	7.03	〃 〃	6・7	看護理論の理解（1）discussion 看護理論の理解（2）discussion	〃	
9・10	7.10	〃 〃	6・7	看護理論の理解（1）discussion 看護理論の理解（2）discussion	〃	
11・12	7.17	〃 〃	6・7	看護理論の実践への適用（1） presentation、discussion 看護理論の実践への適用（2） presentation、discussion	〃	
13・14	7.24	〃 〃	6・7	看護理論の実践への適用（3） presentation、discussion 看護理論の実践への適用（4） presentation、discussion	〃	
15	7.31	〃	6	総括	〃	

### 参考書

1. Ann Marriner-Tomey 都留伸子監訳：Nursing Theorists And Their Work  
看護理論家とその業績第3版、医学書院、2004.
2. Julia B. George 編 南裕子他訳：NURSING THEORIES The Base for  
Professional Nursing Practice 看護理論集 第3版 日本看護協会出版会、2013.

## 授業科目：看護倫理（2単位）

学習目標：看護職者の日常生活と実践活動に活かすための、看護倫理をめぐる議論と看護に関連する倫理綱領／規定並びに倫理分析の手法に関する知識を修得する。

講義回数	月日(曜)	時間	テーマ	担当教員	場所
1,2	4/11(金)	6,7	1. 看護倫理の歴史的背景 2. 看護・看護者職者の倫理 3. 倫理—徳—文化、生命と尊厳、アドボカシー、パターナリズム	片岡万里	6階 老年看護学共同研究室
3,4	4/18(金)	6,7	1. 日本看護協会とICNの倫理規定(1) 2. 倫理的感受性	〃	
5,6	4/25(金)	6,7	1. 日本看護協会とICNの倫理規定(2) ①公正・平等の保障 ②相互信頼関係 ③医療情報と守秘義務 2. 医の倫理規定	〃	
7,8	5/9(金)	6,7	1. 課題：発表 2. グローバル社会における倫理的諸問題 環境の倫理、インターネット、移住者など	〃	
9,10	5/16(金)	6,7	倫理分析の手法	森木妙子	
11,12	5/23(金)	6,7	臨床における身近な倫理的問題	〃	
13,14	5/30(金)	6,7	看護研究の倫理(1)	〃	
15	6/6(金)	6	看護研究の倫理(2)	〃	

連絡先

片岡研究室 TEL/FAX：088-880-2538; e-mail:mkataoka@kochi-u.ac.jp

森木研究室 TEL/FAX：088-880-2558; e-mail:morikita@kochi-u.ac.jp

テキスト

日本看護協会編：平成15年版 看護白書, p.3-93, p217-235, 日本看護協会出版会, 2003.

参考文献

- 1) 赤林朗他：臨床倫理学 第5版 臨床医学における倫理的決定のための実践的アプローチ, 新興医学出版社, 2006.
- 2) 宮坂道夫：医学倫理の方法—原則、手法、ナラティブ, 医学書院, 2011.
- 3) サラ T.フライ著, 片田範子, 山本あい子訳：看護実践の倫理 倫理的意志決定のためのガイド, 日本看護協会出版会, 2002.
- 4) シーア・コルボーン他著, 長尾力訳：奪われし未来, 翔泳社, 2004.
- 5) 杉谷藤子他：ケアを深める看護倫理の事例検討, 日本看護協会出版会, 2011.
- 6) 玉腰暁子他：医療現場における調査研究倫理ハンドブック, 医学書院, 2011.

授業評価 課題と授業参加度

## 授業科目：ペアレンティング学（2単位）

学習目標:子どもの生命が尊重され、健やかに育つ社会を育成するために、**Parenting Education** について理解を深める。人間のライフサイクルの中で生命誕生から小児期、思春期の「将来の親」となる人、成人期、壮年期の「親となる過程」の人が抱える現代諸問題及び看護専門者としての次世代育成や家族支援の方法について追及する。

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	26.10.3	金	6	ペアレンティングの概念	池内	母性看護学（5階）の共同研究室
2	10.10	〃	6	現代家族の実態と諸問題	池内	
3	10.17	〃	6	変化する現代の家族1 社会の変化と子どもの環境1	植田	
4	10.24	〃	6	変化する現代の家族2 社会の変化と子どもの環境2	〃	
5	10.31	〃	6	ライフサイクルと家族の健康 家族看護学の基礎・家族看護学の動向	池内	
6	11.7	〃	6	家族看護学における理論1 システム理論、家族役割・発達理論の活用	〃	
7	11.14	〃	6	家族看護学における理論2 家族ストレスと家族対処理論の活用	〃	
8	11.21	〃	6	家族看護の研究と実践	〃	
9	11.28	〃	6	母子関係の形成と課題	〃	
10	12.5	〃	6	女性のライフサイクルと家族の健康	〃	
11	12.12	〃	6	それぞれのペアレンティングを考える1	〃	
12	12.19	〃	6	それぞれのペアレンティングを考える2	〃	
13	27.1.9	〃	6	それぞれのペアレンティングを考える3	〃	
14	1.23	〃	6	親子関係の作り方 Parenting Education Training	〃	
15	1.30	〃	6	事例の分析とまとめ	〃	

授業科目：看護英語（2単位）

到達目標：看護及び医療に関する研究論文について数多く購読し、グローバルな視点を持ちながら、基本的な医学・看護用語の習得と基礎的な英語読解力を強化し、自らの専門領域の英語論文を読みこなす力をつける。また、修士論文研究作成に必要な英語力全般の能力を培う。

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	H26.10.7	火	6	Developments in the world	植田 味佐	小児看護学（5階）の共同研究室
2	10.14	〃	〃	〃	〃	
3	10.21	〃	〃	〃	〃	
4	10.28	〃	〃	〃	〃	
5	11.4	〃	〃	〃	〃	
6	11.11	〃	〃	〃	〃	
7	11.18	〃	〃	〃	〃	
8	11.25	〃	〃	〃	〃	
9	12.2	〃	〃	〃	〃	
10	12.9	〃	〃	〃	〃	
11	12.16	〃	〃	〃	〃	
12	H27.1.13	〃	〃	〃	〃	
13	1.20	〃	〃	〃	〃	
14	1.27	〃	〃	〃	〃	
15	2.3	〃	〃	〃	〃	

教科書及び参考書等

- 1) [www.voanews.com/specialenglish/](http://www.voanews.com/specialenglish/)
- 2) Longman Dictionary of Contemporary English

## 授業科目：看護政策論（2単位）

### 到達目標

1. 最新の医療、看護、福祉の政策的動向について理解する。
2. 看護現場における看護政策上の諸問題について抽出し、その政策上の問題解決のためにエビデンスに基づいた提言案を作成し説明できる。
3. 看護専門職として専門能力を発揮し、責務を果たすために政策策定に参加することの意義を理解する。

回数	日時	教育内容	担当者	教室
1	26. 10. 7(火) 7限	授業の概要・オリエンテーション 政策とは何か	高橋永子 池内和代	成人看護学（7階） 共同研究室
2	10. 14（火） 7限	最新の医療、看護、福祉の政策的動向	宮井千 恵	〃
3	10. 21(火) 7限	看護制度と政策決定過程 —立法のしくみ—	金平克也 弁護士	〃
4	10. 28（火） 7限	看護の人材育成	池内和代	〃
5	11. 4(火) 7限	看護の人材確保	高橋永子	〃
6	11. 11(火) 7限	個人ワークの進め方 「看護現場における看護政策上の諸問題」	池内和代 高橋永子	〃
7	11. 18(火) 7限	個人ワーク	〃	〃
8	11. 25(火) 7限	個人ワーク	〃	〃
9	12. 2(火) 7限	個人ワーク	〃	〃
10	12. 9(火) 7限	プレゼンテーション(中間)	〃	〃
11	12. 16(火) 7限	個人ワーク	〃	〃
12	27. 1. 13（火） 7限	個人ワーク	〃	〃
13	1. 20(火) 7限	プレゼンテーション・ディスカッション	〃	〃
14	1. 27(火) 7限	プレゼンテーション・ディスカッション		
15	2. 3(火) 7限	総括	〃	〃

### 参考書

1. 井部俊子他：看護管理学習テキスト 第2版 看護制度・政策論、日本看護協会出版会、2011.
2. 見藤隆子他：看護職者のための政策過程入門、日本看護協会出版会、2017.

## 授業科目：病態生理学（2単位）

学習目標： 主要な症候の病態生理を学習し、患者の病態生理を踏まえた上で、高度な看護実践ができるための基礎的能力を養う。

到達目標： 主たる症候の病態生理が理解できる。

学習内容を活用して、事例の病態関連図を作成し、説明できる。

事例について病態を踏まえた看護援助の方向性が説明できる。

講義回数	開講時期	曜日	時限	テーマ	担当教員
1	H.26.4.15	火	6	呼吸障害	溝渕
2	4.22	〃	〃	呼吸不全と呼吸管理	溝渕
3	5.13	〃	〃	循環障害	溝渕
4	5.20	〃	〃	循環器疾患の病態と管理	溝渕
5	5.27	〃	〃	心不全の病態と管理	溝渕
6	6.3	〃	〃	代謝・内分泌障害	溝渕
7	6.10	〃	〃	消化器・肝機能障害	溝渕
8	6.17	〃	〃	栄養管理	溝渕
9	6.24	〃	〃	体液不均衡	溝渕
10	7.1	〃	〃	感染・炎症	溝渕
11	7.8	〃	〃	血液疾患の病態と管理	溝渕
12	7.15	〃	〃	事例展開	青木 溝渕
13	7.22	〃	〃	事例展開	青木 溝渕
14	7.29	〃	〃	事例展開	青木 溝渕
15	8.5	〃	〃	事例展開（発表）	青木 溝渕

成績の評価方法：出席、プレゼンテーション、課題レポート等

教科書及び参考図書：坂井 建雄他：系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学，医学書院。

履修上の注意：特になし

# 2 專 門 科 目



## 看護教育・看護管理学分野の特色

看護教育学分野においては、よりよい看護を提供するための看護学教育のあり方について、その本質と方法論を探究し、看護学教育を実践（教育・臨床）の場で活用できる基礎的能力を有する人材を育成します。

看護管理学分野においては、看護管理者に求められる役割と責務について理解し、基本的責務を担うことができる管理能力の習得と、看護管理に関する視野を広げ、実践現場の課題を探究し、変革するスキルを身につけます。さらに看護管理者としてチーム医療の中でリーダーとしての能力を発揮できる人材を育成します。

授業科目名	講義等の内容	担当教員
看護教育・管理学特論Ⅰ	看護教育学の概念を歴史的変遷をふまえて考察するとともに、看護学教育制度や授業展開について探究します。また、看護の質を高めるための看護継続教育の意義や方法について、その課題を論議します。	坂本 雅代 野村 晴香 岡田 久子
看護教育・管理学特論Ⅱ	看護管理学の基本となる諸理論および看護管理過程のあり方を基盤に、リーダーシップの育成と看護サービスの質保証について検討を重ねる。さらに看護管理の動向を探り視野を広げ、実践現場の課題について問題解決技法を用いて、変革するスキルを習得する。	池内 和代 森木 妙子
看護教育・管理学演習	看護教育学の演習では、看護教育学の現状や今後の方向性について議論を重ね、課題解決に向けた演習を行います。 看護管理学の演習では、看護管理領域における関心の高い概念について概観し、看護管理学研究の動向をつかみ Research mind の向上を図る。	坂本 雅代 森木 妙子
保健医療情報学演習	本学の特徴の一つである医療情報システムを保健医療における情報管理のモデルとして、看護教育・看護管理の実践および研究における情報管理・分析の方法を学習し、各自の研究課題を具体例として情報学的手法を用いて、どのように取り組むかを検討する演習を行います。	栗原 幸男

## 授業科目：看護教育・管理学特論Ⅰ（2単位）

学習目標：

- 1) 看護教育学とは何かその概念と、看護学教育制度や看護教育課程、看護教育方法・評価について、歴史や社会背景をふまえて探求すると共にその課題を検討する。
- 2) 看護の質を向上するための看護継続教育の取り組みについてその課題を検討する。

講義回数	月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	4月17日	木	6	看護教育学の概念（看護教育学とは、看護基礎教育と卒後教育）	坂本	基礎看護学（3階）の共同研究室
2	"	木	7	看護教育制度（看護教育制度並びにカリキュラムの変遷）	坂本	
3	4月24日	木	6	看護教育課程（カリキュラム概念・教育目的・目標）	坂本	
4	"	木	7	看護教育課程（カリキュラム構成と内容）	坂本	
5	5月1日	木	6	看護学教育授業展開1（学習理論、学習レディネス）	岡田	
6	"	木	7	看護学教育授業展開2（授業形態、教育方法）	岡田	
7	5月8日	木	6	臨地実習教育と学習（看護学実習の特質と指導、経験型学習理論）	岡田	
8	"	木	7	看護学教育評価（教育評価の意義と機能、評価方法）	岡田	
9	5月15日	木	6	看護継続教育論1（生涯学習とは、成人学習とは、）	野村	
10	"	木	7	看護継続教育論2（施設内教育プログラム：新人看護師）	野村	
11	5月22日	木	6	看護継続教育論3（施設内教育プログラム：中堅看護師、エキスパート）	野村	
12	"	木	7	看護継続教育論4（施設外教育プログラム、看護教員FD）	野村	
13	5月29日	木	6	看護教育方法論（プレゼンテーション）	坂本 野村 岡田	
14	"	木	7	看護教育方法論（プレゼンテーション）	坂本 野村 岡田	
15	6月5日	木	6	まとめ	坂本 野村 岡田	

## 授業科目：看護教育・管理学特論Ⅱ（2単位）

到達目標：

1. 看護管理の基本となる諸理論および看護管理過程のあり方を探求し、看護管理者に求められる役割と責務について理解し、基本的責務を担うことができる管理能力を習得できる。
2. 人的資源活用論を現場の人材育成に役立て、リーダーシップの育成と看護サービスの質を保証することができる。
3. 看護管理に関する視野がひろがり、実践現場の課題を探求し、変革するスキルを身につける。

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	26. 4. 16	水	6	看護管理の実践の場で起こる問題	森木妙子	担当教員の指定する場所
2		〃	7	看護サービスとは、看護管理過程 看護管理能力とは	〃	
3	4. 23	〃	6	看護管理論、組織変革理論	〃	
4		〃	7	看護管理者のコンピテンシー	〃	
5	4. 30	〃	6	看護管理の動向	〃	
6		〃	7	看護管理の動向	〃	
7	5. 07	〃	6	キャリア開発（人材育成）	池内和代	
8		〃	7	看護の質保証	〃	
9	5. 14	〃	6	労務管理と看護人事	多田 副看護部長	
10		〃	7	業務改善	森木妙子	
11	5. 21	〃	6・7	問題解決技法	〃	
12	5. 28	〃	6	看護と経営 タイムマネジメント	〃	
14		〃	7	看護研究の動向	〃	
15	6. 04	〃	6	看護研究の動向	〃	

参考書：

1. 中西睦子：看護サービス管理 第4版、医学書院、2013.
2. 看護管理学習テキスト（全8巻・別巻）、日本看護協会出版会、2013.
3. 井部俊子：ナースのための管理指標 MaIN2、医学書院、2011.
4. 原玲子：成果の見える病棟目標の立て方、日本看護協会出版会、2012.
5. 尾形裕也：看護管理者のための医療経済学、日本看護協会出版会、2009.
6. 小林亜美他：ナースマネジャーのための問題解決術、医学書院 2014.
7. 虎の門病院看護部：看護管理者のコンピテンシー・モデル、医学書院、2013.
8. Stephen P. Robbins 高木晴夫訳：組織行動のマネジメント、ダイヤモンド社、2006.
9. P・ハーシィ 山本成二役：行動科学の展開—人的資源の活用—、生産性出版、2006.
10. Edgar H. Schein 二村敏子訳：キャリア・ダイナミクス、白桃書房、2000. .

## 授業科目：看護教育・管理学演習（2単位）

### 学習目標

1. 看護教育学並びに生涯教育に関する課題について、文献レビュー・議論を通して明確にする。
2. 問題解決型の演習により、自己の研究課題を明確にし、研究計画書を作成する。
3. 看護管理の研究の動向や重要と思われる概念について概観し、看護管理学研究の動向をつかむことができる。
4. 看護管理に関する視野がひろがり、実践現場の課題を探究し、Research mind の向上が図れる。

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1・2	26.10.09	水	6・7	看護教育学の現状分析と課題の探求	坂本雅代	担当教員の指定する場所
3・4	10.16	㍿	㍿	関心がある概念についての理論的探索	森木妙子	
5・6	10.23	㍿	㍿	生涯教育・人材育成の現状分析と課題の探求	坂本雅代	
7・8	10.30	㍿	㍿	看護管理領域で行われている質的研究とは	森木妙子	
9・10	11.06	㍿	㍿	看護管理領域で行われている量的研究とは	森木妙子	
11・12	11.13	㍿	㍿	看護管理のアウトカム指標	森木妙子	
13・14	11.20	㍿	㍿	研究計画書の作成（1）	高橋永子 坂本雅代	
15・16	11.27	㍿	㍿	研究計画書の作成（2）		

### \*授業の進め方

授業内容、スケジュールについては、学生の希望を考慮し、変更する場合があります。

### 参考図書

1. 舟島なおみ：看護教育学研究—発見・創造・証明の過程、医学書院、2002.
2. 杉森みど里他：看護教育学、医学書院、2005
3. Kathleen R 他 杉森みど里監訳、エビデンスに基づく看護教育学、医学書院、2003
4. グレグ美鈴他：看護教育学、南江堂、2009
5. Stephen P. Robbins 高木晴夫訳：組織行動のマネジメント、ダイヤモンド社、2009.
6. Paul Hersey 山本成二：行動科学の展開—人的資源の活用—生産性出版、2006.
7. 看護管理学習テキスト（全8巻・別巻）、日本看護協会出版会、2013.

## 授業科目：保健医療情報学演習（2単位）

到達目標：保健医療情報の特性を理解する。

看護教育・看護管理の研究における対象の情報表現法を修得する。

保健医療情報を分析する手法を修得する。

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	26.10.02	木	6	情報学視点からの保健医療研究論	栗原幸男	看護学科棟 保健指導室 (2階)
2・3	未定*		6・7	保健医療情報の特性		
4・5	〃	〃	〃	看護教育・看護管理の研究における対象の情報（データ）表現	〃	
6・7	〃	〃	〃	看護教育・看護管理における研究対象の情報（データ）表現演習	〃	
8・9	〃	〃	〃	保健医療情報の分析手法	〃	
10・11	〃	〃	〃	保健医療情報の分析方法の各自の研究課題への応用演習（1）	〃	
12・13	〃	〃	〃	保健医療情報の分析方法の各自の研究課題への応用演習（2）	〃	
14・15	〃	〃	〃	総括	〃	

\*：2回目以降の授業日は履修学生と相談する。

参考図書：

1. Marion J. Ball, Kathryn J. Hannah, Susan K. Newbold and Judith V. Douglas. Health Informatics: Nursing Informatics. Springer.
2. 日本医療情報学会医療情報技師部会. 医療情報 医療情報システム編. 篠原出版新社.
3. Rita D. Zielstorff (編)、西垣 克 (監訳). 看護とコンピュータ. 医歯薬出版.
4. ハーバート A サイモン著、稲葉元吉・吉原英樹訳. システムの科学. パーソナルメディア.

## 成人・老人看護学分野の特色

成人・老人看護学領域では、高度な看護実践者の育成のための知識、技術を学び、看護の質の向上に寄与することを目的とし、高度な看護実践と地域生活者支援者看護に重点を置き、エビデンスに基づいた高度な看護実践を学ぶことで、時代をリードする看護実践者及び研究者を養成する。

授業科目名	講義等の内容	担当教員
成人・老人看護学特論Ⅰ	クリティカルな状態にある人のエビデンスに基づいた看護を実践するために病態や健康アセスメント手法、理論や看護について教授します。そして、事例を用いてクリティカルな状態にある人を理解し、生命維持・日常性の回復に向け、QOLの向上について議論します。	高橋永子 溝渕俊二 山脇京子 青木早苗 林昌子 寺下憲一郎
成人・老人看護学特論Ⅱ	地域で生活するあらゆる健康レベルにある人を対象としたヘルスプロモーション活動や、療養者のQOL向上を目指した看護実践（包括的アセスメントやケアマネージメント手法、理論や諸制度等）について教授します。さらに、事例を用いて、地域ケアにおける倫理的側面や多職種連携のあり方等について議論します。	片岡万里 大井美紀 藤田晶子 齋藤美和 杉本加代
成人・老人看護学演習（１）（２）	（１）あらゆる場所で療養する成人・老人に対し、質の高い看護実践ができるために、専門看護師や認定看護師の看護の現状を学び、課題について議論します。 （２）成人・老人・精神領域の研究動向を把握し、文献レビューとクリティークを行い、自己の研究課題に取り組みます。	高橋永子 片岡万里 山脇京子 大井美紀 藤田晶子 齋藤美和 青木早苗 杉本加代 高橋美美

## 授業科目：成人・老人看護学特論Ⅰ（2単位）

到達目標：

1. 急性臓器障害や侵襲的治療によって急激な健康破綻をきたした人の特徴を理解し、患者や家族がもつ看護問題および倫理問題を考える。
2. 急激な健康破綻をきたした人の健康アセスメントの手法を学び、エビデンスに基づいた看護実践の基盤を修得する。
3. 急激な健康破綻をきたした人の生命の維持、生理機能の回復、日常性の回復に向け、QOL向上を念頭においた看護を学ぶ。

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	6.6	金	7	クリティカルケア看護概論	山脇京子	成人看護学講座成人看護学共同研究室（7階）
2	6.13	〃	6	クリティカルな場における看護理論	高橋永子	
3	6.13	〃	7	クリティカルな患者の病態と特徴	溝渕俊二	
4	6.20	〃	6	クリティカルな患者の病態と特徴	溝渕俊二	
5	6.20	〃	7	フィジカルアセスメント	山脇京子・寺下憲一郎	
6	6.27	〃	6	フィジカルアセスメント	山脇京子・寺下憲一郎	
7	6.27	〃	7	フィジカルアセスメント	山脇京子・寺下憲一郎	
8	7.4	〃	6	事例検討①オリエンテーション	高橋永子・青木早苗・林昌子	
9	7.4	〃	7	事例検討②事例提供	高橋永子・青木早苗・林昌子	
10	7.11	〃	6	事例検討③事例理解	高橋永子・青木早苗・林昌子	
11	7.11	〃	7	事例検討④事例理解	高橋永子・青木早苗・林昌子	
12	7.18	〃	6	事例検討⑤discussion	高橋永子・青木早苗・林昌子	
13	7.18	〃	7	事例検討⑥discussion	高橋永子・青木早苗・林昌子	
14	7.25	〃	6	プレゼンテーション	高橋永子・青木早苗・林昌子	
15	7.25	〃	7	プレゼンテーション	高橋永子・青木早苗・林昌子	

参考書：

1. デブラ・J・リン-マッカーレ・ヴィガン/キャレン・K・カールソン編 卯野木健監訳：AACN（米国クリティカルケア看護師協会）クリティカルケア看護マニュアル原著第5版、エンゼビア・ジャパン、2007
  2. 山勢博彰：クリティカルケア アドバンス看護実践、南江堂、2013
  - 3 池松裕子：クリティカルケア看護論、ヌーヴェルヒロカワ、2009
  4. 寺町優子他：クリティカルケア看護 理論と臨床への応用、日本看護協会出版会、2010
- \*事例検討：個人の関心を持つ事例を提供し、文献等により看護実践の分析を行い、意見交換をすることにより共通認識を図る。

## 授業科目：成人・老人看護学特論Ⅱ（2単位）

到達目標：

1. 地域で生活するあらゆる健康レベルにある人を対象としたヘルスプロモーションの概念を軸に、健康寿命の延長に関する健康行動の支援、包括的なアセスメントについて学ぶ。
2. 療養者の病態を理解し、アセスメントを行い QOL 向上を目指したケアを行うためのケアマネージメント手法を学ぶ。
3. 介護保険制度、人権擁護の関連法規等の理解を踏まえ、在宅療養者とその家族の QOL を高めるためのケアを学ぶ。

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	6.4	水	7	地域生活者看護概論	大井美紀	老年看護学共同研究室・精神看護学共同研究室（6階）地域・在宅看護学共同研究室（4階）
2	6.11	〃	6	地域で生活する人々のヘルスプロモーション活動Ⅰ	大井美紀	
3	6.11	〃	7	地域で生活する人々のヘルスプロモーション活動Ⅱ	大井美紀	
4	6.18	〃	6	慢性疾患を持ちながら生活する人々への支援Ⅰ	齋藤美和	
5	6.18	〃	7	慢性疾患を持ちながら生活する人々への支援Ⅱ	齋藤美和	
6	6.25	〃	6	療養者を対象としたケアマネージメントⅠ	藤田晶子	
7	6.25	〃	7	療養者を対象としたケアマネージメントⅡ	藤田晶子	
8	7.2	〃	6	介護保険制度Ⅰ	杉本加代	
9	7.2	〃	7	介護保険制度Ⅱ	杉本加代	
10	7.9	〃	6	認知症ケア	片岡万里	
11	7.9	〃	7	ターミナルケア	片岡万里	
12	7.16	〃	6	家族看護Ⅰ （在宅療養者と家族）	藤田晶子	
13	7.16	〃	7	家族看護Ⅱ （障害を持つ人と家族）	大井美紀	
14	7.23	〃	6	地域看護活動における人権擁護	片岡万里	
15	7.23	〃	7	総括	片岡万里	

\*参考文献は、適宜紹介する



## 授業科目：成人・老人看護学演習（1）（4単位）

到達目標：病院や医療機関、地域・在宅で療養する成人・老人に対して、他職種と連携し看護専門職として継続した質の高い看護実践ができるための知識及び技術を学び、職能の向上に寄与する。

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1・2	26. 10. 8	水	6・7	糖尿病看護	高橋永子	看護学科棟7階・成人看護学共同研究室
3・4	26. 10. 15	〃	6・7	精神看護	大井美紀	
5・6	26. 10. 22	〃	6・7	がん看護	青木早苗	
7・8	26. 10. 29	〃	6・7	集中ケア	山脇京子	
9・10	26. 11. 5	〃	6・7	医療連携	藤田晶子	
11・12	26. 11. 12	〃	6・7	訪問看護	杉本加代	
13・14	26. 11. 19	〃	6・7	自己の課題の探求	個人ワーク	
15・16	26. 11. 26	〃	6・7	プレゼンテーション・まとめ	全員	

\*授業テーマに関連したリソースナースが講義に加わります。

## 授業科目：成人・老人看護学演習（2）（2単位）

### 到達目標

成人・老人看護学領域における課題について、先行研究をクリティークすることにより最新の知見を得るとともに、自己の研究課題を明確にし、研究計画を作成する。

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	26.10.2	木	6	成人看護学領域における研究の動向	高橋永子	各領域の共同研究室の予定 *成人7階・老人精神6階・地域在宅4階
2	26.10.2	木	7	老人看護学領域における研究の動向	片岡万里	
3	26.10.9	木	6	在宅看護学領域における研究の動向	藤田晶子	
4	26.10.9	木	7	地域看護学領域における研究の動向	齋藤美和	
5	26.10.16	木	6	精神看護学領域における研究の動向	大井美紀	
6	26.10.16	木	7	地域研究のクリティーク	齋藤美和	
7	26.10.23	木	6	精神研究のクリティーク	高橋美美	
8	26.10.23	木	7	研究のクリティーク（プレゼンテーション）	齋藤美和 高橋美美	
9	26.10.30	木	6	研究計画書作成1	担当教員	
10	26.10.30	木	7	研究計画書作成2	担当教員	
11	26.11.6	木	6	研究計画書作成3	担当教員	
12	26.11.6	木	7	研究計画書作成4	担当教員	
13	26.11.13	木	6	研究計画書 プレゼンテーション	担当教員	
14	26.11.13	木	7	研究計画書 プレゼンテーション	担当教員	
15	26.11.20	木	6	研究計画書 プレゼンテーション	担当教員	
16	26.11.20	木	7	研究計画書の修正 まとめ	担当教員	

\*参考文献は、適宜紹介する

\*教室（場所）は、事前に連絡する

## 母子看護学分野の特色

母子看護学分野は、母子看護学課程と実践助産学課程の二つの課程を置きます。

母子看護学課程では、母子の健康と QOL、母性性の発達、育児過程に関する QOL と看護、あるいは施設などにおける子どもの療養生活と QOL、不安の解決やセルフケアを促すための看護などについて、QOL 重視の母子健康課題の発見と展開という問題解決型の学習を重視します。未来の子どもや大人の健康と生活を擁護し、子どもが健康に成長発達でき安心して暮らすことのできる社会を迎えるための課題を探求します。また、母子の生活や健康問題を把握するために必要な理解と知識を学習します。さらに、母子を取り巻く社会や政策、母子の健康問題に影響する諸因子について理解し、次世代の健全育成のために必要な看護の役割の開発ができる能力を修得します。

実践助産学課程では、生活習慣や医療・社会環境の変化等に伴う女性と子ども及び家族をエンパワメントできる高度専門職業人としての役割の所得、新たな状況や環境に柔軟に対応でき優れた「助産実践能力」と「管理能力」を有し、コミュニティや他の専門職と協働して健康増進に向けた「創造力」を発揮できる高度専門職業人（助産師）としての能力を修得します。助産学と母子看護学とを一体的に据え、知識・技術と体験の統合を図り、学生自ら目指すべき人材像を導きだし、主体的に行動・活躍し得る能力を養います。その中で、助産学未学習者は、助産師国家試験受験に必要な科目履修を行い助産学分野の知識・技術を柔軟且つ効果的に履修します。

授業科目名	講義等の内容	担当教員
母子看護学特論 I	生活における女性の QOL 向上のための看護という視野に立って母性性の発達や育児のための看護支援などを扱います。女性の思春期から妊娠・産褥期、育児期、更年期に至るまでの生涯にわたる心理的・成長・発達、社会的側面及び生理的反応を理解・分析する基礎的研究、母性性の発達や妊娠の生活、育児態度と生活要因などについて教授します。	池内 和代 石上 悦子 濱田佳代子 小松 輝子 吉村 澄佳 村上 歩 (新任教員)
母子看護学特論 II	小児、親、家族、また小児を取り巻く環境との相互作用を理解するための理論と看護への活用方法について学習します。小児の各期における成長発達の特性や重要他者との関係、家族発達など小児看護における重要な課題について追求します。	池内 和代 植田味佐 (非常勤)
母子看護学演習	母子看護に関する特論 I・II に示したテーマの研究や重要課題について、文献レビューとクリティーク、フィールドワークをさせ、自ら問題を展開する思考を養い、批判力及び研究を実践するための基本的能力を修得します。	池内 和代 石上 悦子 濱田佳代子 吉村 澄佳 植田味佐 (非常勤) (新任教員)

実践助産学課程科目		
助産学特論	助産実践の基盤となる概念及び理論と、周産期の母子と家族の健康増進を促すための Evidence-Based-Midwifery（以下 EBM とする）の方法論、および援助の開発やその効果の検証方法について理解する。	池内和代 小松輝子
ウイメンズヘルス論	1. リプロダクションに関する解剖・生理について理解する。 2. 女性のライフサイクル各期に起こる主な疾患について学ぶ。 3. 女性とその家族の健康支援に関する特性・現象を理解する。 4. セクシャルヘルスとリスクの回避行動の原理と技法を学び、援助のあり方を理解する。	溝渕俊二 濱田佳代子
助産診断・技術学基礎	1. 周産期の母子の健康と発達の診断及び異常との識別を行うために必要な解剖・生理学、病態生理学を学ぶ。 2. 周産期の母子の健康に関わる遺伝と免疫について学ぶ。 3. 周産期の母子の健康に関わる臨床検査（超音波等）・薬理について学ぶ。 4. 周産期の母子の健康に関わる栄養について学ぶ。	溝渕俊二 池内和代
助産診断・技術学特論 I	1. 妊娠・分娩・産褥、新生児、乳児の生理的経過を理解し助産過程を展開できる能力を養う。 2. 周産期の継続ケアと保健指導の展開方法を学ぶ。	池内和代 石上悦子 杉本加代
助産診断・技術学特論 II	1. 助産過程の展開を通して、経過の診断・予測及び正常逸脱の判断ができる能力を養う。 2. 多様な分娩介助技術の原理と方法を理解する。 3. 母乳哺育についての原理と方法を理解する。	石上悦子 小松輝子 吉村澄佳 (新任)
助産診断・技術学演習	1. 周産期の母子の健康状態と成長・発達を診断し、異常との識別ができる能力を養う。 2. 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の正常経過を促進し女性の意思を尊重した支援ができる能力を養う。 3. EBM の方法論に基きケアを展開できる能力を養う。 4. 分娩経過に応じて母子の安全・安楽なケアを提供できる能力を養う。 5. 母子相互作用を高め、親役割を推進できるケアを提供できる能力を養う。 6. 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の異常発生時の対応ができる能力を養う。（新生児蘇生、会陰縫合術及び超音波診断） 7. 地域助産学実習より地域母子の実態を探り【助産道場】につなげる。	池内和代 石上悦子 小松輝子 濱田佳代子 青木早苗
周産期ハイリスク論	1. 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の異常についてを学ぶ。 2. 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の異常発生時の対応	池内和代 石上悦子 小松輝子

周産期ハイリスク論	<p>及びハイリスクな母子のアセスメントとケアを展開できる能力を養う。</p> <p>3. 緊急時に対応できる知識を学ぶ。(新生児蘇生、会陰縫合術、超音波診断、XP 判読等)</p> <p>4. 周産期における助産師の役割が熟考でき、修了後の【周産期医療人材育成プログラム】への参加意欲を高める。</p>	
周産期医療システム論	<p>1. 地域母子保健の仕組みを理解する。</p> <p>2. 周産期医療に関わる制度・政策の基礎的知識を習得し、周産期の母子の安全確保に向けた情報ネットワーク構築に参画するための基本的能力を養う。</p> <p>3. 周産期医療を中心とした母子保健に関する助産師の役割について学ぶ。</p> <p>4. シームレス医療を追及し助産師の役割を明確にし助産道場につなげる。</p>	栗原幸男 石上悦子
母子精神病理学	<p>1. 女性のライフサイクルにおけるメンタルヘルスについての知識を習得し、女性に対する支援に必要な能力を養う。</p> <p>2. 親子関係に関する精神病理の知識を習得し、親子の心の問題に対するアセスメントとケアを行うための能力を養う。</p> <p>3. 育児期の健康に関わる情報と診断を学び、育児期の母子のケアを展開できる能力を養う。</p>	石上悦子
コンサルテーション論	<p>1. 女性および母子と家族の健康問題の解決や健康課題の達成に向けた相談・教育を行うために必要なカウンセリングおよびコーチングの方法論を追及する。</p>	小松輝子
地域母子保健診断学	<p>1. 地域社会で生活する母子と家族の健康を支援するために必要な知識・技術を習得する。</p> <p>2. 他の職種や組織との連携及びセルフヘルプグループへの支援について理解する。</p> <p>3. 体外環境要因として汚染物質についてその作用と母子の健康に及ぼす影響について学ぶ。</p> <p>4. 国際化時代の地域母子保健を学ぶ。</p>	池内和代 石上悦子 (新任)
助産管理学	<p>1. 助産業務管理、リーダーシップ、マネジメント、コーディネーション等の原理と方法について学び、evidenceに基づく女性の意思を尊重した支援の在り方を追及する。</p> <p>2. 管理実習(対象:医療機関、助産所より選択) 助産実践の場における助産管理の実際に対する考察を通して、場の特性に応じた管理を行う能力や、多職種の協働及び保健・医療・福祉等の関連機関の連携に必要な調整を行う能力を養う。</p> <p>3. プロポーザルの知識を深め、組織改革、政策提案できる能力を養う。</p> <p>4. 周産期に関する法的責任を学び、自立した専門職としての役割を追及する。</p>	高橋永子 池内和代

## 授業科目：母子看護学特論Ⅰ（2単位）

学習目標：あらゆる世代の女性及び子どもと家族の健康増進のための課題を探求し明確にする。時代の変化及び日本の歴史的背景・文化、諸理論の理解を基に母性と子どもの課題の具体的な支援のあり方を追求する。

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	H.26.4.15	火	7	オリエンテーション 母子を取り巻く環境	池内	母性看護学共同研究室
2	4.22	火	7	日本の少子化現象とその対策	村上	
3	5.13	〃	7	女性の健康に関する主要な概念と理論	濱田	
4	5.20	〃	7	女性の健康に関する主要な概念と理論	〃	
5	5.27	〃	7	カウンセリングとコンサルテーション1 (総論)	石上	
6	6.3	〃	7	カウンセリングとコンサルテーション2	〃	
7	6.10	〃	7	カウンセリングとコンサルテーション3	〃	
8	6.17	〃	7	母子保健の仕組みと意義	小松	
9	6.24	〃	7	子どもを理解するための理論1	新任	
10	7.1	〃	7	子どもを理解するための理論2	新任	
11	7.8	〃	7	現代の子どもの特徴と課題1	新任	
12	7.15	〃	7	現代の子どもの特徴と課題2	吉村	
13	7.22	〃	7	生命倫理の展開と課題1	池内	
14	7.29	〃	7	生命倫理の展開と課題2	〃	
15	8.5	〃	7	生命倫理の展開と課題3・総括	〃	

## 授業科目：母子看護学特論Ⅱ（2単位）

学習目標：母子の生活における QOL の向上を目指した看護の基礎的検討を行う。母子の自律や自己決定や療養における諸症状や反応について検討し、セルフケアにおける課題の抽出や倫理等について理解を深める。

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	H.26.4.15	火	6	Current topics in pediatric maternal nursing	植田侖佐	臨床看護学講座・小児看護学共同研究室（5階）
2	4.22	〃	〃	〃	〃	
3	5.13	〃	〃	〃	〃	
4	5.20	〃	〃	〃	〃	
5	5.27	〃	〃	〃	〃	
6	6.3	〃	〃	〃	〃	
7	6.10	〃	〃	〃	〃	
8	6.17	〃	〃	〃	〃	
9	6.24	〃	〃	〃	〃	
10	7.1	〃	〃	〃	〃	
11	7.8	〃	〃	〃	〃	
12	7.15	〃	〃	〃	〃	
13	7.22	〃	〃	〃	〃	
14	7.29	〃	〃	〃	〃	
15	8.5	〃	〃	〃	〃	

## 授業科目：母子看護学演習（1）

学習目標：母子看護学、小児看護学における重要課題、母子保健の現状と課題を中心に基礎的・応用的に文献を読み先行研究のクリティークや事例を分析しながら研究法の基礎を修練し、事故の研究課題を明確にしながら研究計画の作成をする。

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	26.10. 7	火	7	Current topics in pediatric nursing care & study	植田味佐	母性看護学共同研究室（5階）
2	10.14	〃	〃	〃	〃	
3	10.21	〃	〃	〃	〃	
4	10.28	〃	〃	〃	〃	
5	11. 4	〃	〃	〃	〃	
6	11.11	〃	〃	〃	〃	
7	11.18	〃	〃	〃	〃	
8	11.25	〃	〃	〃	〃	
9	12. 2	〃	〃	〃	〃	
10	12.9	〃	〃	〃	〃	
11	12.16	〃	〃	〃	〃	
12	27.1.13	〃	〃	〃	〃	
13	1.20	〃	〃	〃	〃	
14	1.27	〃	〃	〃	〃	
15	2. 3	〃	〃	〃	〃	



## 授業科目：母子看護学演習（2）

学習目標：母子看護学、小児看護学における重要課題、母子保健の現状と課題を中心に基礎的・応用的に文献を読み先行研究のクリティークや事例を分析しながら研究法の基礎を修練し、事故の研究課題を明確にしながらか研究計画の作成をする。

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	26.10.3	金	7	オリエンテーション 母子及び家族に関する研究の概要	池内	母性看護学共同研究室
2	10.10	〃	〃	母性看護学領域における研究の動向	濱田	
3	10.17	〃	〃	小児看護学領域における研究の動向、	吉村	
4	10.24	〃	〃	看護研究方法の検討2（量的研究）	新任	
5	10.31	〃	〃	看護研究方法の検討1（質的研究）	濱田	
6	11.7	〃	〃	母性看護研究のクリティーク	濱田	
7	11.14	〃	〃	小児看護研究のクリティーク	新任	
8	11.21	〃	〃	助産学に関する研究のクリティーク	石上	
9	11.28	〃	〃	助産学に関する研究のクリティーク	〃	
10	12.5	〃	〃	研究計画書の作成1	池内他	
11	12.12	〃	〃	研究計画書の作成2	〃	
12	12.19	〃	〃	研究計画書の作成3	〃	
13	H27.1.9	〃	〃	研究計画書のプレゼンテーション1	〃	
14	1.23	〃	〃	研究計画書のプレゼンテーション2	〃	
15	1.30	〃	〃	研究計画書の修正・まとめ	〃	

授業の進め方：ゼミナール形式

（学生自身がプレゼンテーションし、その内容に基づいて討論し学習を深める。授業内容スケジュールについては、学生の希望及び状況により漸次修正する。）

# 実践助産学課程科目

授業科目：助産学特論（1単位 15時間）

- 学習目標： 1. 助産実践の基盤となる概念及び理論と、周産期の母子と家族の健康増進を促すための Evidence-Based-Midwifery（以下 EBM とする）の方法論について理解する。
2. 助産実践の基盤となる概念及び理論を基に助産に関わる現象や対象者の理解を深めるためのアセスメント能力を高め、助産実践への適応を探究する。
3. 助産過程の展開を通して、経過の診断・予測及び正常逸脱の判断ができる能力を養う。

評価方法：試験・出席状況

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	14. 4. 11	金	2	助産の概念 リプロダクティブヘルス/ライツ	池内	大学院ゼミ室1 (6階)
2	14. 4. 14	月	2	助産と倫理	池内	
3	14. 4. 18	金	4	助産の歴史 助産師教育の変遷	池内	
4	14. 5. 16	金	3	助産診断・技術学の概要	池内	
5	14. 5. 31	月	2	助産診断過程 I	小松	
6	14. 6. 9	月	2	助産診断過程 II	小松	
7	14. 6. 16	月	2	助産診断過程 III	小松	
8	14. 7. 22	月	2	評価	池内	

テキスト	参考書・参考文献
助産学講座1・5・6 医学書院 助産師基礎教育テキスト1 日本看護協会出版会 実践マタニティ診断 第3版 日本看護診断・実践研究会 医学書院	助産学研究入門 WHO 勧告に見る望ましい周産期ケアとその根拠 WHO の 59 カ条お産のケア実践ガイド 助産師の意思決定 EBM 楽しい演習帳 バース・リボーン—よみがえる出産—

授業科目：ウイメンズヘルス論（1単位15時間）

- 学習目標： 1. 性/生殖に関わる身体の構造と機能を理解する。  
 2. 女性のライフサイクル各期の特徴と健康問題を理解する。  
 3. 性/生殖の健康リスク回避行動の支援に必要な知識を習得する。

評価方法：試験・出席状況

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	14. 4. 16	水	2	性/生殖に関する解剖と生理 I	溝渕	大学院ゼミ室1（6階）
2	14. 4. 17	木	3	性/生殖に関する解剖と生理 II	溝渕	
3	14. 4. 15	火	2	女性のライフサイクル各期の特徴	濱田	
4	14. 4. 23	水	2	女性のライフサイクル各期に起こる主な疾患	溝渕	
5	14. 4. 22	火	2	セクシュアルヘルスケア I（家族計画の概要）	濱田	
6	14. 5. 13	火	2	セクシュアルヘルスケア II（避妊の原理と方法）	濱田	
7	14. 5. 20	火	2	セクシュアルヘルスケア III（個別相談と健康教育）	濱田	
8	14. 7. 22	火	2	試験	濱田	

受胎調節実地指導員講習に読替え

テキスト	参考書・参考文献
助産学講座2・3・4・5 医学書院 助産師基礎教育テキスト2・6 日本看護協会 出版会 木村好秀ほか：家族計画指導の実際 医学書院	新・受胎調節指導用テキスト 生涯人間発達学 女性の生涯発達とアイデンティティ 助産師業務要覧（基礎編・実践編）

濱田一水木以外、時間指定なし

授業科目：助産診断・技術学基礎（1単位15時間）

- 学習目標： 1. 生殖に関する要因として、感染・遺伝・免疫・について学ぶ。  
 2. 周産期の母子に関わる臨床検査（CTG・超音波等）について学ぶ。  
 3. 周産期に関する薬剤について学ぶ。

評価方法：試験・出席状況

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	14.4.24	木	2	周産期の主な感染症、予防接種、母子感染	溝渕	大学院ゼミ室1（6階） 母性看護学実習室（5階）
2	14.5.14	水	2	免疫のしくみ・周産期の免疫学的特性 I	吾妻	
3.4	14.5.15	木	3 4	周産期に関する検査（超音波・CTG） 胎児心拍数モニタリングの判読 周産期に関する薬剤（分娩期）	池内	
5	14.5.21	水	2	免疫のしくみ・周産期の免疫学的特性 II	吾妻	
6	14.5.28	水	2	遺伝のしくみ・遺伝子、染色体の異常 I	吾妻	
7	14.6.12	木	3	周産期に関する薬剤（妊娠期・産褥期）	宮村	
8	14.7.25	金	2	評価	石上	

テキスト	参考書・参考文献
助産学講座2・3・6・7 医学書院 助産師基礎教育テキスト4 日本看護協会出版会 荒木 勤：最新産科学（正常編）文光堂	プリンシプル産科婦人科学 第2版 増崎 英明：臨床産科超音波診断 メディカ出版 藤森 敬也：胎児心拍数モニタリング講座 改訂第2版 メディカ出版

授業科目：助産診断・技術学特論Ⅰ（1単位 30時間）

学習目標： 1. 妊娠・産褥、新生児の生理的経過とケアを理解する。  
2. 周産期の母子の健康に関わる栄養について学ぶ。

評価方法：試験・出席状況

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1.2	14.4.14	月	3.4	妊娠の生理Ⅰ	池内	大学院ゼミ室1 (6階)
3.4	14.4.17	木	3.4	母子の栄養と運動（歯科保健）	杉本	
5.6	14.4.18	金	3.4	妊娠の生理Ⅱ	池内	
7.8	14.4.21	月	3.4	妊婦のケア	池内	
9.10	14.5.7	水	3.4	正常産褥の生理Ⅰ	石上	
11.12	14.6.9	月	3.4	正常産褥の生理Ⅱ	石上	
13.14	14.6.16	月	3.4	正常新生児の生理	石上	
15	14.7.25	水	2	評価	池内	

テキスト	参考書・参考文献
助産学講座3・6・8 医学書院 助産師基礎教育テキスト4・6 日本看護協会出版会 荒木 勤：最新産科学（正常編）文光堂	プリンシプル産科婦人科学 第2版 病気が見える Vol.10 産科 改訂第3版

授業科目：助産診断・技術学特論Ⅱ（1単位 30時間）

- 学習目標： 1. 分娩介助技術の原理と方法を理解する。  
 2. 産婦および 出生直後の新生児のケアを展開できる能力を養う。  
 3. 乳幼児の特性と成長・発達を理解する。

評価方法：試験・出席状況

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1. 2	14. 5. 12	月	3・4	分娩の生理Ⅰ	小松	大学院ゼミ室1（6階） 母性看護学実習室（5階）
3. 4	14. 5. 19	月	3・4	分娩の生理Ⅱ（分娩介助法）	小松	
5	14. 5. 23	月	3	産婦のケアⅠ	小松	
6	14. 7. 30	水	3	産婦のケアⅡ	石上	
7. 8	14. 5. 31	金	3・4	出生直後の新生児のケア（観察と診断）	小松	
9・10	14. 6. 11	水	3・4	乳幼児の特性と乳幼児健診（予防接種）	吉村	
11. 12	14. 6. 25	水	3・4	乳幼児の成長・発達Ⅰ（遊び・事故予防対策）	新任	
13. 14	14. 7. 9	水	3・4	乳幼児の成長・発達Ⅱ（栄養・食事）	新任	
15	14. 7. 25	金	2	評価	小松	

テキスト	参考書・参考文献
助産学講座 3・7・8 医学書院 助産師基礎教育テキスト 5・6 日本看護協会出版会 荒木 勤：最新産科学（正常編） 文光堂 実践マタニティ診断第3版 日本看護診断・実践研究会 医学書院 仁志田 博司：新生児学入門第3版 医学書院	プリンシプル産科婦人科学 第2版 田村 正徳：新生児蘇生法テキスト 体位別フリースタイル分娩一回旋がわかる 助産師のためのフィジカル イグザミネーション 進 純郎：分娩介助学 医学書院 平澤 美恵子、村上 睦子：写真で分かる助産技術

授業科目：助産診断・技術学演習（3単位 90時間）

- 学習目標： 1. 周産期の母子の健康状態と成長・発達を診断し、異常との識別ができる能力を養う。  
 2. 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の正常経過を促進し女性の意思を尊重した支援ができる能力を養う。  
 3. EBM の方法論に基きケアを展開できる能力を養う。  
 4. 母子相互作用を高め、親役割を推進できるケアを提供できる能力を養う。  
 5. 母乳哺育についての原理と方法を理解する。  
 6. 補完代替療法について理解する。  
 7. 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の異常発生時の対応ができる能力を養う。  
 （新生児蘇生、会陰縫合術及び超音波診断）  
 8. 地域助産学実習より地域母子の実態を探り【助産道場】につなげる。

評価方法：演習評価・出席状況

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	14. 5. 26	月	3	妊婦診察技法（外診法）	池内	
2	14. 5. 26	月	4	妊娠診察技法（骨盤外計測法）	小松	
3. 4	14. 5. 29	木	3 4	会陰切開・裂傷縫合（2回/内医師1回）	乾	
5	14. 6. 9	月	3	妊娠診察技法（評価）	池内	
6	14. 6. 4	水	2	遺伝のしくみ・遺伝子、染色体の異常 II	吾妻	
7	14. 6. 5	木	3	超音波診断技法	乾	
8～14	14. 6. 24 ～ 8. 5	火	3	受胎調節実地指導演習 受胎調節実地指導演習（プレゼンテーション）	濱田	
15	14. 6. 26	木	3	褥婦・新生児のケア	石上	
16. 17	14. 7. 7	月	3 4	乳房管理（母乳育児の原理と方法） 乳房管理の実際	石上	
18. 19	14. 7. 10	木	3 4	新生児の観察 ベビーマッサージ・沐浴	石上	
20	14. 7. 15	火	2	乳腺疾患の見分け方	青木	
21. 22	14. 7. 28	月	3	母子と補完代替医療	石上	



	(7.30)		4	産婦のケア（産痛緩和）（東洋医学・アロマ等）	
23～28	14.9.3 ～5			過疎地域体験演習	池内
29	未定			周産期の指導	石上
30～33	未定			新生児蘇生法(NCPR) 公認講習会参加 選択：専門コース(Aコース) 一次コース(Bコース)	石上
34～45	14.9.1 ～ 14.9.26		3 4	分娩介助演習・分娩介助演習チェック(9回) フリースタイル分娩(1回) 演習チェック(2回)	小松 池内 石上
評価	未定			各演習評価の総合	小松 池内 石上

テキスト	参考書・参考文献
助産学講座 2・6・7・8 医学書院 助産師基礎教育テキスト 2・4・5・6 日本看護協会出版会 仁志田 博司：新生児学入門第3版 医学書院 田村 正徳：新生児蘇生法テキスト メジカルビュー社 荒木 勤：最新産科学（正常編） 文光堂	プリンシプル産科婦人科学 第2版 体位別フリースタイル分娩一回旋がわかる 助産師のためのフィジカル イグザミネーション 進 純郎：分娩介助学. 医学書院 2008 増崎 英明：臨床産科超音波診断 メディカ出版 藤森 敬也：胎児心拍数モニタリング講座 改訂2版 メディカ出版 母乳育児支援ガイド 母乳育児支援スタンダード

授業科目：周産期ハイリスク論（1単位 15時間）

学習目標： 1. 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の異常について学ぶ。

2. 異常発生時の対応及びアセスメントとケアを展開できる能力を養う。

評価方法：試験・出席状況

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	14. 10. 1	水	4	ハイリスク妊娠とケア（DM・TPD・PIH等）	池内	大学院ゼミ室1（6階）・母性看護学実習室（5階）
2	14. 5. 22	木	3	分娩期の異常 （巨大児・肩甲難産・CPD・遷延分娩・軟産道損傷等）	乾	
3	14. 5. 22	木	4	産褥期の異常 （子宮復古不全・血栓塞栓症・妊娠高血圧症候群 産褥期感染症 等）	乾	
4	14. 6. 6	金	3	分娩期の異常のケア	小松	
5	14. 6. 9	月	4	産褥期の異常のケア	石上	
6	14. 6. 16	月	4	新生児の異常のケア	石上	
7	14. 7. 25	金	4	NICUとハイリスク新生児のケア	非常勤	
8	未定			評価	石上	

テキスト	参考書・参考文献
助産学講座6・7・8 医学書院 助産師基礎教育テキスト4・5・6 日本看護協会 出版会 荒木 勤：最新産科学（異常編）文光堂	標準産科婦人科学（第3版）医学書院 標準小児科学（第7版）医学書院 プリンシプル産科婦人科学 第2版 メディカル ビュー社

授業科目：周産期医療システム論（1単位 15時間）

- 学習目標： 1. 世界と日本の周産期医療の現状と体制を理解する。  
 2. 周産期医療に関わる制度・政策の基礎的知識を習得する。  
 3. 母子保健の課題について考えることができる。  
 4. 女性や子供に対する暴力問題に関わる助産師の役割を学ぶ。  
 5. 周産期の母子の安全確保に向けた情報ネットワーク構築を学ぶ。

評価方法：試験・出席状況

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	14.10.6	月	3	周産期医療体制・母子保健制度と母子保健施策 (日本の産科・新生児の現状、高知の現状)	福永	大学院ゼミ室1(6階)・医学部講義棟
2	14.10.15	水	4	周産期医療の現状(世界)	石上	
3	14.10.30	木	4	産期医療システムにおける助産師活動 (院内助産・助産師外来)	石上	
4	14.11.5	水	4	性暴力を受けた女性の看護(DV含)・子供虐待	石上	
5	14.11.6	木	4	地域医療計画と医療連携	阿波谷	
6	14.11.17	月	4	地域医療の現状	和久	
7	14.11.18	火	4	情報ネットワークの構築(高知の周産期医療)	栗原	
8	14.11.21	金	4	評価	石上	

テキスト	参考書・参考文献
助産学講座4・9・10 医学書院 助産師基礎教育テキスト2・3 日本看護協会出版会 助産師業務用覧(基礎編・実践編) 日本看護協会出版会 母子の主なる統計2013 母子保健事業団 わが国の母子保健 平成26年 母子保健研究会	助産外来・院内助産所 計画・開設・運営マニュアル 臨床助産師必携—生命と文化をふまえた支援—

授業科目：母子精神病理学（1単位 15時間）

- 学習目標： 1. 女性のライフサイクルにおけるメンタルヘルスについての知識を習得する。  
 2. 親子関係に関する精神病理の知識を習得し、親子の心の問題に対するアセスメントとケアを学ぶ。

評価方法：試験・出席状況

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	14. 4. 16	水	3	産前・産後の精神疾患（産前・産後のうつ病、産褥精神病、精神疾患合併妊娠等）	山崎	大学院ゼミ室1（6階）
2	14. 4. 16	水	4	女性のライフサイクルとメンタルヘルス（摂食障害、パニック障害、PMS、DV等）	山崎	
3.4	14. 6. 27 14. 7. 18	金 金	2 2	不妊症・不育症治療および治療後の心理的問題 家族を含めた支援と他機関との連携 GW「出生前診断を考える妊婦の意思決定過程を支援」 プレゼンテーション	関	
5	14. 5. 21	水	3	親子関係をめぐる問題（母子・父子関係）	澤田	
6	14. 5. 21	水	4	親子関係をめぐる問題（児童虐待）	澤田	
7	14. 6. 16	月	2	ペリネイタルロスとグリーフケア（流産・死産の悲嘆反応、子供の喪失を含む）	石上	
8	14. 7. 28	月	2	評価	石上	

テキスト	参考書・参考文献
助産学講座4・6・7 医学書院 助産師基礎教育テキスト4・5・6 日本看護協会出版会 新道 幸恵他：母性の心理社会的側面と看護ケア 医学書院	親と子のきずな 親と子のきずなはどうつくられるか 母子関係の理論 母と子のアタッチメントー心の安全基地ー 母子と家族への援助 母子臨床と世代間伝達 赤ちゃんの死を前にして

授業科目：コンサルテーション論（1単位15時間）

学習目標：1. 健康問題の解決や健康課題の達成に必要な知識を学ぶ。

2. 指導者としてカウンセリングやコーチングなどのコミュニケーションスキルを学ぶ。

3. 健康教育の運営方法を学び、実践できる。

評価方法：プレゼンテーション・提出物・GW参加度・出席状況

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	14. 4. 14	月	3	助産師の行う相談・教育・援助の基本	小松	大学院ゼミ室1（6階）および 母性看護学共同研究室（5階）
2	14. 4. 21	月	3	健康教育の実際（展開・企画立案・運営・評価）	小松	
3	14. 4. 21	月	4	健康教育の実際（教育方法）	小松	
4	14. 4. 28	月	4	指導の実際（集団指導・個別指導）	小松	
5	14. 4. 28	月	4	指導の実際（出生前教育と育児指導）	小松	
6.7	14. 5. 9	金	3 4	指導の実際（GW・プレゼンテーション）	小松	
8	14. 6. 2	月	2	評価（発表）	小松	

テキスト	参考書・参考文献
助産学講座5 医学書院 助産師基礎教育テキスト4 日本看護協会出版会	カウンセリングとコンサルテーション 辻村英夫 産む力の咲かせ方 出産準備クラスにおけるエンパワーメント

授業科目：地域母子保健診断学（1単位15時間）

- 学習目標： 1. 地域社会で生活する母子と家族の健康を支援するために必要な知識を習得する。  
 2. 他の職種や組織との連携及びセルフヘルプグループへの支援について理解する。  
 3. 体外環境要因として汚染物質についてその作用と母子の健康に及ぼす影響について学ぶ。  
 4. 国際化時代の地域母子保健を学ぶ。  
 5. 母子保健に関する助産師の役割について学び、助産道場につなげる。

評価方法：プレゼンテーション・GW参加度・出席状況

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	14. 11. 10	月	2	国際化時代の地域母子保健	石原	大学院ゼミ室1（6階）
2	14. 10. 6	月	4	母子保健行政と関係法規	新任	
3	14. 10. 8	水	4	周産期と喫煙・国際化社会の看護	石上	
4	14. 10. 17	金	4	周産期と生活環境（環境汚染・電磁波・放射線等）	石上	
5	14. 11. 7	金	4	母子保健活動の展開	大井	
6.7	14. 11. 14	金	3	GW：地域における助産師の役割（助産道場）	池内	
			4	※グループでテーマを決める		
8	14. 11. 17	月	4	評価（プレゼンテーション）	池内	

テキスト	参考書・参考文献
助産学講座1・3・9 医学書院 助産師基礎教育テキスト1 日本看護協会出版会 母子の主なる統計2013 母子保健事業団 わが国の母子保健 平成26年 母子保健研究会	助産師業務用覧（基礎編・実践編） 臨床助産師必携－生命と文化をふまえた支援－

授業科目：助産管理学（2単位 30時間）

- 学習目標： 1. 助産業務管理のための原理と方法について学び、EBMに基づく女性の意思を尊重した支援の在り方を追及する。
2. プロポーザルの知識を深め、組織改革、政策提案できる能力を養う。
3. 周産期に関する法的責任を学び、自立した専門職としての役割を追求する。
4. 災害時の助産管理を学ぶ。
5. 周産期における助産師の役割が熟考でき、卒業後の【周産期医療人材育成プログラム】への参加意欲を高める。
6. 管理実習（対象：医療機関、助産所）
- 助産実践の場における助産管理の実際に対する考察を通して、場の特性に応じた管理を行う能力や、多職種の協働及び保健・医療・福祉等の関連機関の連携に必要な調整を行う能力を養う。

評価方法：プレゼンテーション・ディスカッション参加度・出席状況

講義回数	年月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
1	14. 10. 9	木	3	看護管理の機能と方法	高橋	大学院ゼミ室1（6階）
2	14. 10. 16	木	3	組織行動のマネジメント（1）	高橋	
3	14. 10. 23	木	3	組織行動のマネジメント（2）	高橋	
4.5	未定		1・2	助産管理の実際（産科診療所の管理）	池内	
6	14. 11. 1	水	3	助産管理と関係法規	池内	
7	14. 10. 8	水	3	周産期の医療事故とリスクマネジメント（1）	池内	
8	14. 10. 15	水	3	周産期の医療事故とリスクマネジメント（2）	池内	
9	14. 10. 29	水	3	災害時の助産管理（1）	池内	
10	14. 11. 5	水	3	災害時の助産管理（2）	池内	
11	未定			病院における助産業務管理	公文	
12	14. 7. 31	木		助産所管理の実際（助産所見学）	眞鍋	
~14	14. 8. 1	金		助産所における助産業務管理 （助産サービスの評価・診療報酬）	池内	
15	14. 11. 12	水	3	プレゼンテーション	池内	

テキスト	参考書・参考文献
助産学講座10 医学書院 助産師基礎教育テキスト3 日本看護協会出版会 助産師業務要覧（基礎編・実践編）日本看護協会出版会	臨床助産師必携－生命と文化をふまえた支援－